楽しい絵手紙

八女市吉田
井上　江美子

八女市西公民館で大坪次太先生から絵手紙を習っています。絵手紙を書くようになってから、街角で見かける花や木々、山に咲いている野草など、気にかけて見るようになりました。色々と新しい発見もあります。又、サークル（彩和の会といいます）での皆さんとの出会いがとても楽しく心を癒されています。

立花ジュニアバレーボールクラブ　楽しい仲間たち

私たちは、八女市立花町を中心に小学生女子で構成されたバレーボールクラブです。今年は、部員５名と厳しいため、星野ジュニアさん３名と一緒に８名で現在活動しています。

今年でクラブ設立12年を迎え、１００名を越える子供達と一緒にバレーボールと触れ合って来ました。２年前には初めて県大会へ出場し、ベスト８まで進み貴重な経験を積む事ができました。また、現在コーチとして３期生の教え子が指導に携わってくれています。

今年は公式戦１勝を目標に一つでも多く勝てればと毎週水曜日午後６時、土曜日午前９時より週２回立花町体育館で練習を行っています。

今後益々部員減少が懸念されます。少しでも多くの子どもにバレーボールの楽しさを知ってほしいと思っています。まずは見学（体験）からでも結構ですので、一度足を運んでください。

興味・関心のある方は090－9402－2928（堤）まで

私たちとバレーボールをしませんか!!

活力朝礼

「姿勢を正す。」これは、身体の姿勢を真っすぐにすることでもあり、また、精神を正しく律することの意味もあると思います。

朝礼とは、まさしくこの「姿勢を正す」ことを朝一番から全員で共有する時間です。私たちは、八女市で、健康や姿勢にいい靴の販売業、そして、整体と介護の資格スクールをやっております。これらを通して、立ち姿勢・歩く姿勢、いわゆる「歩行改善」のご指導やセミナー等を行いながら、100歳になっても自分の足で元気に歩く！そのお手伝いを日々させてもらっています。

以前も朝礼はやっておりましたが、ただ業務の連絡・確認をするくらいでした。一昨年程前から、「倫理法人会」の活力朝礼を取り入れ始めたところ、メンバー全員に小さな変化が出始めました。朝礼で使用する「職場の教養」には毎日、感動する話しや、身を律するような話しが掲載されていて、メンバー全員でその感想を述べ合います。ただの業務の確認だった朝礼に、メンバーの意識共有の時間が加わりました。おかげでメンバーは更に仲良く、仕事のミスも減り、仕事を自分で考えて、自ら実践する事が自然に出来るようになってきました。実は朝礼とは非常に影響力のあるものなんです。今やこの「活力朝礼」は毎年コンクールが開催され、テレビ・ラジオ等マスコミで大きく取り上げられ、この地域でも多くの会社さんが実践されています。「姿勢を正す」には朝一番の元気な朝礼が一番です！

有限会社　鶴得介商店
WALK SMART つる．アンドワン整体スクール 八女校．T･G･C未来創造カレッジ
八女市本町３１１番地　ＴＥＬ　0943-23-5566

活力朝礼を取り入れたい方は、筑後倫理法人会　事務局0942-42-2815迄

新緑の井原山～雷山を周回

山登りだよ人生は!

野鳥のさえずりが野山を渡る季節になった。鳥たちも景色の良さを伝えたいのだろう。

今日も好天に恵まれて、佐賀県脊振山系井原山をめざす。

杉の植林帯を抜けて高度を上げていくとミツバツツジが迎えてくれて山頂着となる。ここでしばらく時間をとり雷山へ向かう。

初夏の日差しが降り注ぐ縦走路は快適そのもので新緑のプロムナードだ。

特にミツバツツジのトンネルは、これだけでも来た甲斐がある程素晴らしい。全ての植物と共存するには私たちの努力も必要で、この自然を後世に残したいものだ。

又登山の妙味は他の登山者とのふれあいだろう。今回は孫の啓（6才）に皆さんから励ましの声をかけて下さり、10kmの山道を5時間かけて踏破できた。

これからも、このような出会いを大切にして行こうと思う。

八女文化連盟写真部　**樋口　清人**

呟き　おとしはいくつ

「かわいかね~おとしはいくつ」もみじのようなおててをひろげて「ふた～ちゅ」青々とした田んぼを泳ぐかえるたちを孫と見ていると、水の見回りに来た地区の長老に声を掛けられた。「お元気ですね。おいくつですか」簡単な世間話の後で年を尋ねる。「も～85になってしもた」まるで長寿が申し訳ないといった様子。少子高齢化による年金、医療費など社会保障費の問題等等日本の財政難の責任を一身に負っているようにさえみえる。頭も足腰もしっかりしている。長い間一家の大黒柱として生きてきた貫禄が漂う。

「甚平似合ってますよ」話題を変えると、父の日のプレゼント、福岡に住んで週一回は電話を入れ、月一回は帰ってくるという孝行息子である。「それは感心ですね」といって別れた。数々の苦難を乗り越えてきたお年寄りの知恵と経験は何かと頼りにされ、町内の生き字引きとして敬愛されてきた。身を粉にして働き、地域の行事にも先頭に立って尽くしてきた大先輩が、回りに遠慮がちに生きている姿を目にして、明日は我が身、これが豊かな国日本の現実かと悲しくなった。三浦雄一郎さんのエヴェレスト登頂には80歳、全英テニスで活躍の伊達公子さんには42歳の前置詞がつく。二人の活躍が同年代の人に比べて突出しているのはわかるが、ご本人はどういう気持ちで聞かれるのだろう。人間には死ぬまで名前と年齢がついて回る。名前を忘れるのはご免だが、年は努力次第で実年齢より遅らせることもできよう。下りエスカレーターを前向きにかけ上がるようなものだと言うなかれ。「年を重ねるだけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる」とサムエル・ウルマンは教えている。　はるお

地蔵盆の詩

深町準之助

盆は盆でも地蔵盆だ
社日神社の桜の枝に
吊した提灯（あかり）が　ゆらゆら揺れて
境内（けいだい）を照らす

揚げろ揚げろ　花火を揚げろ
樹間に組んだ櫓の上から
シューッ　シューッ　闇を縫って
花火が宙を飛ぶ
仕掛けた〝銀波（ぎんぱ）〟が地面にこぼれて
波のようにはじけ散る

早よ行（い）け　早よ行（い）け
赤い前垂（まえだ）れ　地蔵さんが
とびきり　笑顔で待っとらす

よか晩ばい
ほんなこつ　よか晩ばい
年に一度の子供の祭り…